



南雲和夫

信用と信頼の早期回復を

行政の執行者はその責任として、町民に対して信用と信頼、そして清新は欠くことのできないものであり、議員も同様のものと考えます。行政を司る長としての考え方、政治姿勢について伺います。

質問

三俣地域振興に向けて地元住民との話し合いの協調をどのように図っていくのか。また町民にどのように理解を求めていくのか。

町長答弁

国、県、町の行政機関の窓口として、地元選出委員による三俣

ようやく動き出した
三俣未来まちづくり協議会

未来まちづくり協議会が発足し安堵しております。三者で3月18日地元に出向き、振興策について説明をし、融和協調を図り要望の実現に向けて努力してゆきたい



春スキーで賑わう三俣ロープウェー駐車場周辺

と考えています。直接的には地元住民による地域の未来づくりが町全体の将来像、発展ということになりますので、町民の方々の傍聴はやぶさかではありませんが、そこで意見を聴する考えは持っています。

質問

目的基金、一億円の美術館建設に関する故川上四郎画伯の遺族との約束と、その現状はどうなっているのか。

町長答弁

ご遺族には川上四郎展、全国童画展での作品展示と寄託のお願い、建設基金創設の報告をしてきております。美術館建設は私の公約でもあ

り、気持を含めその方向の考えを示してはいますが、言葉の上では約束をしておりません。

今後の財政の課題と、未来に渡って展示が出来るよう整理し委員会の発足と17年度建設に向けて検討が出来るように取り組みをしていかなければならないと考えています。

質問

町民の理解が得られなかったことを中止の理由とした国際会議に関する住民訴訟の結果、責任について自らが有権者に説明し、その審判を仰ぐ考えはあるか。

町長答弁

会議の中止に際し、経費負担も含めお願いもしたが、結果としてこうなった時に中止についての理由を議会に諮った上で、決断すべき

であった。大きな教訓として反省し新たな出発点としたいと思っております。

審判について、原発などの重大な問題についてはその真意を問う住民投票を行なうという昨今でもありますが、制度としてこの議場で判断していただくのが適切であると思っております。

今回の問題に関し、各々の議員から叱咤激励や適切な助言をいただいていることは、将来の湯沢町を心配し発展を願うので、議会の場で町政に誤りのないよう議員とともに判断し、行政運営を行なっていくというのが私の基本的な考えであります。

意見

このような状況の中で平成16年度予算を審議、決定していかなければならないのは町民総参加の町づくりを目指そうとする観点からも残念であり、私なりに今後を見極めていきたいと思

一

般

質

問